

最新情報

1) OSP-EXA 制御

オリンパス純正 OSP-EXA 波長切換えユニットの制御テストを行いました。この装置の制御には、RS-232C によるシリアル制御と TTL 信号による制御の2通りがありますが、Meta ではシリアル方式ではなく TTL 方式を用いることで正常に制御が行えることを確認しました。なお、この制御には Meta デバイスドライバとして#31020 シャッターデバイス制御ドライバと専用ケーブル(2 BNC 出力)が必要となります。※MetaFluor ではケーブルのみが必要
この件でご不明な点は、当社担当までお問い合わせください。

2) Meta ソフトウェアのちょっとした裏技 1

Meta ソフトウェア (MetaMorph、MetaVue、MetaFluor) を使用中に、イメージウィンドウサイズを虫眼鏡のアイコンを用いて拡大・縮小できることは皆さんご存知だと思います。が、[Shift キー]を押さえながら、マウスでウィンドウの外枠を動かすことで、任意のサイズに画像を拡大・縮小できることをご存知の方はあまりいらっしゃらないと思います。割と便利な機能ですので、是非ともお試しください。

3) Meta ソフトウェアのちょっとした裏技 2

MetaMorph (Vue) で複数のスタックファイル (拡張子 STK) を 1 のスタックにしたい場合、通常全てのスタックファイルを読み込んだ後に Stack メニューの Add Plane で 1 つずつスタックを付け加えていたかと思いますが、これではスタックファイルを読み込みおよび Add Plane をそれぞれ複数回行わなければなりません。File メニューの Open Special, Build Stack, User Defined で 1 つのスタックにしたい複数スタックファイルを選択し Append することですべてが繋がったスタックを作成することができます。多くを処理する場合かなり手間が省けると思います。お試しください。

4) Meta ソフトウェアのちょっとした裏技 3

MetaMorph でフィルター設定やシャッター設定を行う場合、Device, Configure Illumination で Illumination を作成する必要があるのはすでにご存じだと思いますが、シャッターの開閉、ND フィルター選択など MDA (Multi Dimensional Acquisition) の Wavelength 設定に必要な Illumination も数多くあります。これらが MDA の各 Wavelength で Illumination を選択する時に数多く表示されて煩わしいと感じる場合、Illumination 設定保存とジャーナルを作成することにより解決します。


MDA 等で必要のある Illumination 設定と必要のない設定に分けて、それぞれ設定ファイル (拡張子 ILS) を保存します。(Configure Illumination 内 Backup で行います。)

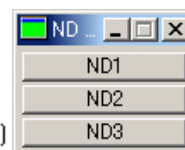
下記ジャーナルで①Restore で頻度の少ない ILS ファイルを読み込み、②Illumination 選択、③Restore で頻度の多い ILS ファイル読み込みを行います。これらのジャーナルファイル (拡張子 JNL) を複数作成し、それぞれをタスクバー上にのせてボタンを押して ND フィルターなどを変更することができます。(MDA の Wavelength 選択のところでは表示されません。)

必要に応じてご使用ください。

 1: Illumination - Restore Settings(File Name = C:\MM61\app\mmproc\DATA\ND.ILS)

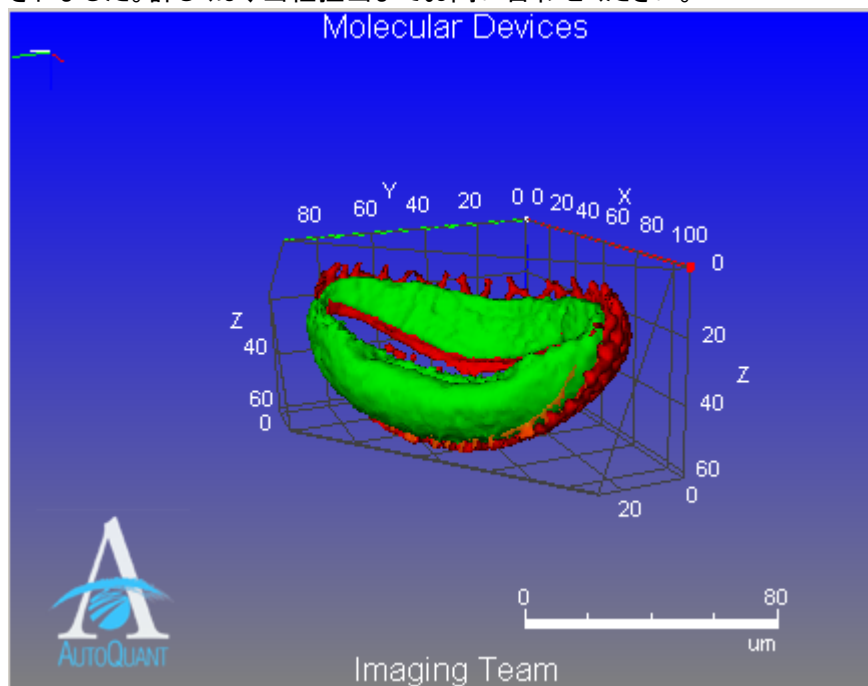
 2: Select Illumination("ND1")

 3: Illumination - Restore Settings(File Name = C:\MM61\app\mmproc\DATA\Default.ILS)



5) **AutoVisualize がより使いやすくなりました**

Auto Quant Imaging 社のビジュアライゼーションソフトウェア (AutoVisualize) が V9.3.4 になり FLUOVIEW ファイルの読み込みや MetaMorph との連携をはじめとし、使い勝手が飛躍的に向上されました。詳しくは、当社担当までお問い合わせください。



6) **DualView 使用時にチャンネル間の輝度差を補正する必要が生じた場合の対応**

Optical Insights 社製 DualView 光学系を用いた際に、チャンネル間(左右ないし上下のチャンネル)で輝度差が強く生じてしまっている場合は、輝度の高いチャンネルに ND フィルターを挿入して輝度補正を行います。しかし、通常 Chroma の ND フィルターにはコーティングが施されているために乱反射を起こす恐れがあります。これを防ぐためにはコーティング無しの ND フィルターを用いなければいけません。ご注意ください。ちなみにこの ND フィルターは Chroma のカタログにも載っておりません。(NG タイプといい厚さ 1.5mm 以下 定価2万)

詳しくは、当社担当までお問い合わせください。

7) **X-Cite 120PC 制御**

EFOS 社のメタルハライドを用いた光ファイバ光源ユニット(モデル X-Cite120PC)を Meta ソフトウェアから制御が可能となりました。この光源は、内部にシャッターを実装していますのでタイムラプス測定などに大変便利です。

以上